

成蹊大学文学部日本語教員養成コース規則

制 定 平成6年3月2日
文学部教授会
最新改正 2024年2月17日

(趣旨)

第1条 この規則は、成蹊大学文学部規則第6条第2項の規定に基づき、成蹊大学文学部（以下「本学部」という。）の日本語教員養成コースに関し必要な事項を定める。

(設置)

第2条 本学部に、日本語教員養成コース（以下「コース」という。）を置く。

2 コースの運営に関し必要な連絡調整を図るため、学部長の下に、コース運営委員会を置く。

3 コース運営委員会は、学部長が指名した者で構成する。

4 コース運営委員会は、コースの運営に係る連絡調整の結果を本学部教授会に報告する。

(目的)

第3条 コースは、本学部において日本語教員の養成に必要な科目を編成し、外国人に対して日本語を教授するために必要かつ十分な教育を実施することを目的とする。

(単位の修得)

第4条 コースを履修しようとする者は、別表に定めるコースの授業科目及び単位を修得しなければならない。

(登録及び履修)

第5条 コースを履修しようとする者は、原則として、2年次の始めにコースの登録を行わなければならない。ただし、別表に定めるコースの授業科目の履修は、一部の科目を除き、コースの登録前に行うことができる。

2 登録に際しては、所定の履修費を納入しなければならない。

(日本語教育実習)

第6条 日本語教育実習を履修しようとする者は、前条に定めるコースの登録を行い、かつ、履修の前年度終了までに次の表に掲げる各区分の科目の単位を修得していなければならない。

科目区分	日本語教育実習履修に必要な修得単位数		備考
社会・文化・地域	2以上	20以上	「日本語教育概論」を含めること。
言語と社会	2以上		
言語と心理	2以上		
言語と教育	2以上		「日本語教授法」を含めること。
言語	4以上		「日本語教育方法論」を含めること。

2 日本語教育実習を履修しようとする者は、履修する年度の始めに所定の実習費を納入しなければならない。

(卒業に必要な修得単位数への算入)

第7条 別表に定める授業科目の履修により修得した単位は、文学部規則の定めるところにより卒業に必要な修得単位数に算入する。

(コース単位修得証明書)

第8条 コース履修者で、本学在学中に別表に定める修了に必要な修得単位数を修得した者には、別に定めるコース単位修得証明書を発行する。

(コース修了証明書)

第9条 別表に定める修了に必要な修得単位数を修得し、本学を卒業した者には、本人の申請に基づき、日本語教育機関の告示基準（平成28年7月22日出入国在留管理庁策定）第1条第1項第13号口の規定を満たす者として、コース修了証明書を発行する。

(規則の改廃)

第10条 この規則の改廃は、教授会の議を経て、学部長が行う。

附 則 (略)

別表 日本語教員養成コース科目 (第4条関係)

(注) ○印の数字は、当該科目の単位数を表す。

科目区分	必選区分	授業科目名・単位数	修了に必要な修得単位数		
社会・文化・地域	必修	日本語教育概論②	2	4以上	33以上
	選択	漢文基礎② 比較文学A② 比較文学B② 日本の歴史と文化A② 日本の歴史と文化B② 国際関係論入門② 国際文化論② 戦後の日本と世界② 国際文化交流論② グローバリゼーションの社会学② Current Topics in World Affairs②			
言語と社会	選択必修	日本語教育事情② 言語学講義(言語と社会)②	2以上	4以上	
	選択	文化人類学入門Ⅰ② 文化人類学入門Ⅱ② 民族文化論② 教育社会学② 世界の言語文化② 社会言語学316② 英語圏文化422(複言語・複文化主義)②			
言語と心理	必修	日本語の学習と習得②	2	4以上	
	選択	社会心理学入門② 教育心理学② 心理学の基礎② 自己理解の心理学② 社会心理学② こころの健康と臨床②			
言語と教育	必修	日本語教授法② 日本語教育実習①	3	3以上	
	選択	日本語教育理解と実践② 日本語教育演習②			
言語	必修	日本語教育方法論②	2	10以上	
	選択必修	言語の構造② 対照言語学②	2以上		
	選択	日本語研究の基礎② 日本語の歴史A② 日本語の歴史B② 日本語表現講義② 実践漢字講座② 日本語法② 英語学入門210② 日本語学講義A② 日本語学講義B② 日本語学講義C② 日本語学講義D② 日本語表現の特質②			
		英語音声学311② 対人関係の言語学315② 音声分析411② 英文法414②			
		コミュニケーション論入門② 成蹊グローバルセミナーA② 成蹊グローバルセミナーB② Cross Cultural Communication Skills② 英語圏文化322(コミュニケーション)② 英語圏文化426(英語教育)②			

(注) この表のうち、「日本語教育実習」は、コース登録者のみ履修することができる。